

【育児を通じて】

大分市 中尾 明博さん

私には、5歳の長女ともうすぐ3歳になる長男がいる。私と妻は高齢者施設で働き共働きである為、日中は保育園に通って、毎日を楽しんでいる。

「育児」とは、国語辞典には「乳幼児を育てること」と書いており、「乳幼児」をインターネットで調べてみたら、「乳児と幼児を合わせた呼び名であり、乳児は児童福祉法で、生後0日から満1歳未満までの子をいい、幼児は、満1歳から小学校就学までの子供のことをいう。」とかかれていた。それからすると、私は現在、育児の真っ最中である。そんな中で、自分自身に「育児」の点数をつけるとするならば、20点ぐらいと感じている。その理由として、仕事のある日の保育園の送り迎えは、妻まかせ、子供が体調不良になった時も妻まかせ、仕事が終わって帰るのも遅く、家事もほとんど妻まかせであるからだ。こんな状況で、第三者からしてみれば「0点だろ。」と思われるかもしれない。しかし、私が20点をつけたのには、そんな状況でも、自分が休みの日には、積極的に育児を楽しんでおり、妻に毎日、感謝しているからだ。(口にはだませんが…)

私が育児をする中で、もっとも喜びが大きかったのは、二人に将来の夢を尋ねた時に、長女は「プリキュアになりたい。(3歳の時は、葡萄でした。)、長男は「象になりたい。」と言った時でした。

そのような将来の夢を二人が言ったのは、仕事が休みの日には、絵本を読んだり、一緒にテレビをみたり、ラクテンチやアフリカンサファリ、うみたまご等に出かけているからだと感じている。このような育児を通じて、長女と長男の日々成長し、言動もしっかりしてきている姿にとっても大きな喜びと感動を味わうと同時に、育児はとても楽しく、喜びや感動をたくさんもらえるものだと思えて実感しました。

社会は少子高齢化が進み、大分県は男性が育児に関わる時間が日本一短いと言われていいる。育児を通じて、まだまだ多くの事を学び、喜びや感動を積み重ねながら、「ワークライフバランス」を確立し、育児に関わる時間を今よりも増加し、自分自身の「育児」の点数が100点になるようにしたい。そして、妻や両親、様々な方に毎日感謝の気持ちを忘れずに、子供が明るく元気で笑顔が絶えないような人間に成長していく姿を、父親として長く見守り応援していきたい。